



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

視野外VR空間操作による認知症疑似体験システム

著者	上田 悠人
発行年	2019
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028847

視野外 VR 空間操作による認知症疑似体験システム

関西学院大学大学院理工学研究科

人間システム工学専攻 井村研究室 上田 悠人

日本では、諸外国に例を見ない速度で高齢化が進行しており、超高齢社会に突入している。超高齢社会への対策として、地域全体で認知症患者を含む高齢者を理解し、支えていく必要がある。しかし、社会が認知症を理解しているかどうかを調べるために、実際に現場で働いている介護職員に一般人の認知症理解についてのアンケートを実施したところ、「正しく理解されていない」、「偏見が多い」等といった否定的な意見ばかりで、介護職員の観点からみると、一般人の認知症に対する理解はいまだ不十分であると考えられていることがわかった。また、介護の現場においても認知症患者の内面を推し量るのが困難といったような様々な不安を抱えながら業務をしていることがわかった。地域全体で高齢者を支えていくためには、未だ不十分であり、認知症を含む高齢者への理解と共感を深めるための手段が必要であるといえる。本研究では、認知症のうちのアルツハイマー型認知症によって引き起こされる記憶障害の特徴に着目し、症状によって引き起こされる現象を VR 空間の中で再現することで、認知症の症状を能動的に疑似体験することができる VR システムを構築することを目的とする。

認知症のうち最も数が多いアルツハイマー型認知症における中核症状である記憶障害について着目する。普通の物忘れの場合、体験した一部の記憶が抜け落ちてしまうが、忘れたという自覚があり、ヒントがあれば思い出すことができる。アルツハイマー型認知症によってもたらされる記憶障害の場合、認知症患者は自身の行動したこと自体を忘れてしまい、忘れたという自覚も得られず、ヒントを出されても思い出すことができないという特徴がある。こういった特徴により、認知症患者が記憶の中で想定している環境と実際の周辺環境に差異が生じる。その際に、体験者に知覚されないように周辺の環境を体験者が何らかの動作を行った後の環境へと変化させることで、認知症患者が自身の行った行動を記憶障害によって忘却してしまい、周辺環境が唐突に変化したかのように感じるという現象を再現する。

実装したシステムの評価実験を行った。介護老人保健施設にて、システムの体験前後に認知症に対する印象を調べるアンケートを実施し、差分からシステムの効果性を調査した。本システムを体験することで、認知症に対する印象が寛容になることが確認された。また、体験システムの質が効果性に影響を与えることも確認された。

キーワード

認知症 VR, VR コンテンツ, 障害疑似体験, 介護教育